

整形外科学系

日本大学医学部整形外科の特色

日本大学医学部整形外科の臨床・研究・教育は、脊椎、下肢、腫瘍、上肢の4つの専門分野ごとに行われています。よき臨床医の育成を最優先し、幅広い分野で高度の整形外科医療を学べます。附属2病院をはじめ、実践的で臨床教育にすぐれた関連病院が多数あり、多数の臨床経験を積むことができます。研究面では自由、創造性を重視して指導しています。また国際性を尊重し、海外留学を奨励しています。



中西 一義 教授

●脊椎手術：頸椎から仙椎まで、脊椎 instrumentation から顕微鏡、内視鏡手術まで

中西教授を中心に板橋病院、日本大学病院、で頸椎（図1）から仙椎までの変性疾患から外傷、変形、腫瘍、炎症まで多種多様な脊椎・脊髄疾患を脊椎 instrumentation（図2）から顕微鏡、内視鏡手術（図3）まで各種手術で対応しています。2大学附属病院いずれも充実したスタッフが対応し、多種多様な脊椎、脊髄疾患と手術を幅広く経験できます。

基礎研究では椎間板変性とバイオメカニクス、喫煙による脊椎への影響などの研究を継続しています。

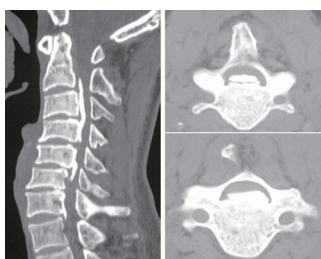


図1 頸椎後縦靭帯骨化症例

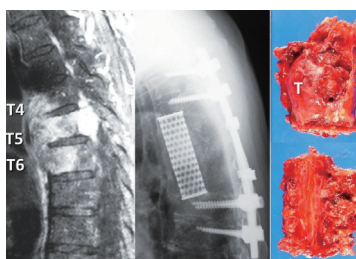


図2 脊椎悪性腫瘍手術

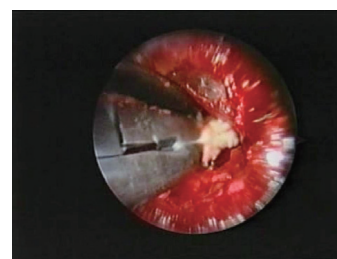


図3 椎間板ヘルニア内視鏡手術

●関節手術：日本有数の人工関節手術数、特に両側同時人工膝関節置換が世界的に有名

龍准教授を中心にリウマチ・関節専門外来では、多くの関節リウマチ（RA）や関節疾患の患者の診療を薬物治療から手術治療まで体系的習得が可能です。臨床実績は日本有数の人工関節手術数を誇り、多くの症例を体験できることは他施設では経験できない貴重な研修です。特に日大式人工関節を用いた両側同時人工膝関節および股関節置換術（図4-7）は患者さんにとって有益ですが、現在も限られた施設でしか施行されていません。

また、研究面では軟骨代謝と骨・軟骨の再生医療が有名です。

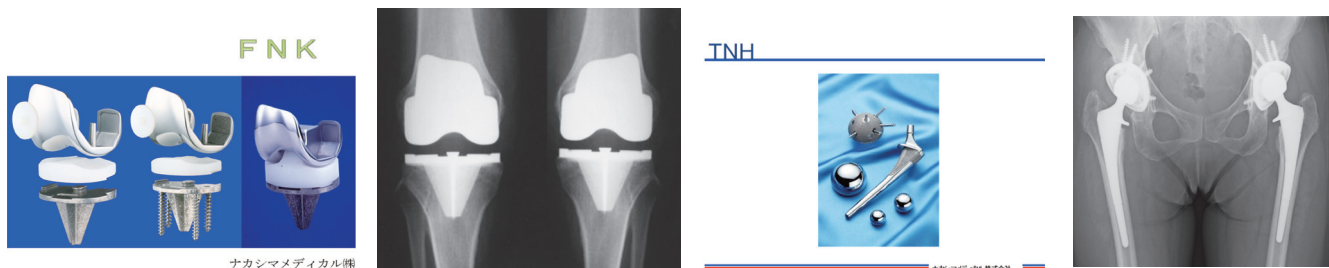


図4 FNK 人工膝関節

図5 FNK 術後 X-P

図6 TNH 人工股関節

図7 TNH 術後 X-P

●骨軟部腫瘍手術：小児から成人の良性・悪性腫瘍を手掛ける

四肢や躯幹（胸壁、腹壁、骨盤、脊椎）を構成する骨組織や筋肉など軟部組織の運動器に発生した腫瘍の診断と治療を専門的に行っており、第三代鳥山教授のもとに生まれた当教室において最も歴史ある研究班です。

特に骨肉腫（図8,9）、Ewing肉腫などは小児科、放射線科などと連携を取りながら集学的治療を行っています。

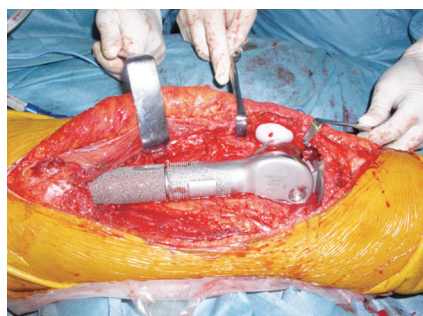


図8 患肢温存の腫瘍用人工関節



図9 術後 X-P

手外科手術：絞扼神経障害と手の外傷中心の手外科

主として日本大学病院で多くの手外科症例を経験することができます。月曜日、水曜日、金曜日には手外科診を行っており、年間の手外科手術は手の外傷も含めると約 400 件です。手の外傷や、絞扼性神経障害（図 10）、変形性関節症、腱鞘炎、マイクロサージャリーなど、対象疾患は多岐にわたっています。少数精鋭で診療を行っておりますので難症例などあれば随時検討会を行い、治療方針を吟味するなどしています。東京手肘研究会に属し、首都圏の手外科医との交流もあります。これまで University of Texas Medical Branch (UTMB)、Mayo Clinic、University of Pittsburgh への留学経験者がいます。



図 10 手根管症候群に対する鏡視下手根管開放術

スポーツ手術：スポーツ医学のテクノロジーを一般の患者様へ

スポーツ医学から得られた高い治療技術を一般患者にも応用して治療しています。関節鏡を用いた膝靭帯再建術（図 11）、肩腱板修復術、肩関節唇修復術、野球肘、軟骨移植術など可能な限り自己組織を温存した低侵襲手術だけではなく、中高年者のスポーツ愛好家を対象とした骨切り術やエコーガイド下 fascia ハイドロリリース（図 12）など多岐にわたる治療を行っております。また臨床だけではなく、膝前十字靭帯の解剖やプロチーム、全日本チームなどのチームドクターの活動も積極的におこなっています（図 13）。

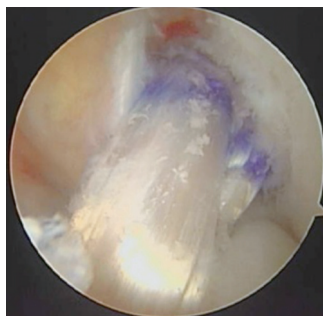


図 11



図 12



図 13

後期研修（卒後 3 - 6 年）

研修プログラムの到達目標

- 1) 整形外科専門医に必要な整形外科的基本知識と基本技術、態度の修得を目的とする。
- 2) 整形外科の特定分野に限られることなく、オールラウンドに最先端、最良の整形外科研修を行う。
- 3) 日本整形外科学会専門医の取得
- 4) 医学博士の学位取得目的の研究の着手（後期研修医終了後学位申請の資格授与）
- 5) 各種専門分野の専門医取得に着手：卒後 5 年目以降（大学院生の場合は卒業後）に各研究班に所属して専門分野の専門医取得と学位取得をめざす。

研修プログラム

4年間の研修プログラムからなり原則として医学部附属病院勤務1.5年間、関連病院勤務2.5年間で6ヵ月～1年ごとのローテーションにて整形外科専門医をめざした研修を行なう。

研修プログラムに関する行事と責務

- 1) 月1回の医局研究会に参加し、少なくとも年1回以上主演者として発表を行う。
- 2) 3ヵ月に1回整形外科集談会関東地方会に参加する。
- 3) 日本整形外科学会、東日本整形災害外科学会、関東整形災害外科学会の会員になること。
- 4) 適宜、学会、研究会にて研究発表と論文作成を行う（日本整形外科学会整形外科専門医申請に必要）。
 - ・年間少なくとも2回以上主演者として学会、研究会（医局外）にて発表を行う。
 - ・筆頭著者として年間少なくとも1編以上の論文を作成、雑誌に掲載する。
 注：整形外科専門医申請には1編以上、学位申請には学位論文以外に2編以上の論文が必要となる。
- 5) 毎年7月末に開催される日大整形夏季セミナーに出席する。
- 6) 卒後5年目以降はいずれかの研究班に所属する。

研修中に配属される医局関連病院（日本整形外科専門医研修認定施設）

春日部市立病院	地域の公的中核病院
川口市立医療センター	地域の公的中核病院 救命センター併設 外傷例が非常に多い
埼玉県立小児医療センター	関東有数の小児整形外科教育研修施設
東松山市立市民病院	地域の公的中核病院
公立阿伎留病院	地域の公的中核病院
国立病院東京災害医療センター	地域の公的中核病院救命・救命センター併設
横浜中央病院	地域の公的中核病院 外傷例が非常に多い
はぎわら病院	地域の中核病院 外傷例が非常に多い
板橋区医師会病院	地域の公的中核病院
本庄総合病院	地域の中核病院
総合東京病院	地域の中核病院 多数の人工関節手術が行われている
苑田第三病院	脊椎脊髄病センター 脊椎外科の専門病院
小張総合病院	地域の中核病院 外傷例が非常に多い
みつわ台総合病院	地域の中核病院 外傷例が多い

専門医取得への道筋

日本整形外科学会専門医の取得が必要不可欠である。

日本整形外科学会専門医の取得年数は、後期研修4年間。

教室の卒後7年以降はほぼ全員が取得している。

取得できる認定医、専門医

- 日本整形外科学会専門医
- 日本リウマチ学会専門医

下記認定医は日本整形外科学会専門医取得が条件になる。従って後期研修プログラム修了後になる。

- 日本整形外科学会認定スポーツ医
- 日本整形外科学会認定リウマチ医

●日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医

●義肢装具等適合判定医

その他 日本手外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医をめざすことができる。

大学院での研究テーマ

脊椎班：ラット椎間板の再生医療

脊椎インストゥルメンテーションの開発

体幹・四肢の動作解析 など

下肢班：脱分化脂肪細胞による再生医療

GRAPE Technology を適用したチタンファイバーメッシュのアパタイト形成能

超高分子ヒアルロン酸の OA 滑膜に及ぼす影響など

腫瘍班：骨肉腫に対する遺伝子標的治療薬の開発

骨肉腫に対する放射線増感剤の開発など

上肢班：超音波診断装置の介入させたインターベンション技術の開発など

国内留学、海外留学の実績

国内留学

海外留学が原則であるが、希望があれば留学可能。

海外留学

1) 大学院生の場合は、大学院留学規定に順ずる。

2) 大学院生以外は、①留学目的が明確であること、②留学先の受け入れを確保できていること、③語学の準備が済んでいることが条件で、主任教授の許可と推薦、そして医局運営委員会の承認が得られれば誰でも留学可能です。本人の意志により留学可能であり、教室は積極的に留学を奨励しています。マサチューセッツ総合病院、ピッツバーグ大学、University of Texas Medical Branch (UTMB)、Mayo Clinic への留学経験者がいます。例年数人の留学者がおります。

問い合わせ先

日本大学医学部整形外科医局 TEL：03-3972-8111

ホームページアドレス：<http://www.ortho.nihon.org>

連絡先：医局長 小島 敏雄 E-mail：kojima.toshio@nihon-u.ac.jp